学級づくりＡＢＣ（７）

〈がんばれ若い先生たち〉

～ちょっとしたワザワザが人の心を動かす～

始業式のワザワザでいいスタートを

若手教師パワーアップセミナー
「元気が一番」塾主宰
仲島正教（なかじま まさのり）

「ただいま！お母さ～ん。今度の先生ね，なんかいい感じ。ぼく大好き！」

始業式の日，こんなふうに我が子が帰ってきたら，お母さんはどんなにうれしいことでしょう。

新年度の始業式，子どもにとっても保護者にとっても，一番の関心事はやはり担任の先生のことです。保護者の間で「当たり」や「はずれ」とうわさが流れることに苛立ちは感じますが「教育の最大の環境は教師」であることを考えるとこれも真摯に受け止めなければならないことかもしれません。

ならば信頼される「出会い」をすることは，一年間のスタートとして，とっても大事なことなのです。

始業式にぜひやっておきたいワザワザ

①　教室はピカピカに　そして名前を

普通に掃除するのは当たり前，それだけではなく，蛍光灯の裏側まで拭いてみます。すると不思議なことに心までも明るくなるのです。そんなピカピカの教室に入ってきた子どもたちには，やる気がみなぎっています。

黒板に言葉を書くのは当たり前，それだけではなく黒板に全員の名前と一言を書いてみます。話したこともない子に「元気な子かな？」「漢字が好きな子かな？」「優しい子かな？」「体育が好きな子かな？」「給食大好きな子？」そう書くと子どもはあとで必ず，

「先生，私の事を知ってたの？」

「先生，僕は体育より算数が好きだよ」

って，先生に話しに来るのです。

②　連絡帳には必ず一言書く

始業式の日はとにかく忙しいのです。でも連絡帳には必ず一言書き入れます。

「担任の仲島です。

一年間よろしくお願いします」

横に自分のプリクラでも貼って吹き出しのようにして書けば効果は絶大です。子どもは家に帰ると，そのことを必ず伝えます。すると「なんかいい先生だね」と，多くの家庭からは返事が返ってきます。中にはプリクラ付きの返事もあります。まずはこうやって家庭とのパイプを開通させておくことが重要なのです。連絡帳とは宿題や準備物の連絡の役目だけではなく，家庭との大切なホットラインの役目があるのです。初日は忙しくて書く時間などないと思うかもしれませんが，その中でワザワザ書くからこそ，保護者の心を揺さぶるのです。ちなみに私は教科書を配った後，子どもたちに読ませている10分間に連絡帳に書いていました。

「お母さん，先生が連絡帳に何か書いているよ」

って，家で嬉しそうに渡すはずです。

③　学級通信の第１号を

体裁が整った学級通信でなくてもいいのです。とにかく第１号を出すことに意義があります。「今度の先生はなかなかやりそう」そう思ってもらえるだけで十分です。第１号は担任の自己紹介でOK，生年月日から好きな食べ物まで出来るだけ詳しく書くことによって，子どもも親もどこかに共通点を見つけてくれます。

「お父さん，これ見て見て」

「先生と僕，星座が一緒や」

「先生の車，うちの車と一緒や」って，親子で楽しく見ることでしょう。

④　外で一緒に遊ぶ

連絡帳に加えて初日から「外で遊ぶ」なんて時間がないと思うでしょうが，たった５分でもいいのです。とにかく外に出て「鬼ごっこ」です。

「さあ，鬼ごっこ始めるよ」

５分後，

「さあ，今日はこれで終わりだよ」

「えーもう終わり？短すぎるよ」

「ごめんね，じゃあ明日続きをしよう」

たった５分の遊びだったけど「この先生は遊んでくれるんだ」と子どもは感じます。そして翌日からも楽しみにして登校してくるのです。

外遊びでもう一つ大事なのは，教室から出てくる順番を見ておくことです。これである程度の仲間関係や配慮のいる子がわかるのです。配慮のいる子には帰り際に「また先生と遊ぼうね」と肩に手を置き，そっと一声かけてやります。その子は家に帰ると

「お父さ～ん，ただいま！」

と元気な笑顔を見せてくれるはずです。

☆☆☆

始業式は忙しい，でもやってみると，

「僕この一年頑張るよ。○○先生好き」

「お母さんも○○先生のことを気に入ったよ。いい一年になりそうね」

という家庭での会話が聞こえてくるのです。担任教師のちょっとした「ワザワザ」が子どもも親も安心させるのです。

教師には，教育技術という「ワザ」も必要ですが，それに「人の心」をプラスした「ワザワザ」があれば，教師と子ども（家庭）の間には，温かい「つながりと感動」が生まれます。これが学級づくりの第一歩なのです。

連載講座

学級づくりＡＢＣ（８）

〈がんばれ若い先生たち〉

～ちょっとしたワザワザが人の心を動かす～

学級目標やめあてを生かすワザワザ

若手教師パワーアップセミナー
「元気が一番」塾主宰
仲島正教（なかじま まさのり）

「さあ，運動場に出て遊ぼう！」

そんな先生の元気な声かけで，子どもたちは運動場に飛び出していきます。微笑ましい学校の光景です。

実は，ここに学級づくりの大事なことがあります。こんな時，先生も一緒に教室を飛び出していくのですが，そのまま行ってはいけません。必ず一度止まって後ろを振り返ります。すると教室に一人，二人と残っている子がいます。その時はその確認だけしてから運動場に行きますが，次の休み時間には，

「さあ，またみんなで外で遊ぼう！」

と言いながら，先ほど教室に残っていた子どものそばに一番に行ってやり，一緒に手をつなぎます。そして

「先生と一緒に行こう！」

と連れ出してやるのです。

担任は，一人一人が生き生きとした学級をつくりたいと思っていますが，それは裏を返せば，クラスで一番厳しい状況の子が生き生きとしているかということなのです。教室に一人ぼっちの子をつくらない，そこから学級づくりが始まります。そして誰一人としてけっして見捨てない教師の後ろ姿を，子どもたちはちゃんと見ているのです。

学級目標は，わかりやすいものを

どの教室にも，だいたい正面に学級目標が掲げられています。時にはいろんな言葉が入った長い文が書かれている教室もあります。きっとみんなで意見を出し合って，それをつないで作った目標なのでしょう。これはこれで素晴らしいのですが，なかなかスラスラ言うことができません。それではせっかくの目標が生活と結びつきにくいのです。すぐに声に出せるからこそ，授業の中でも，生活の中でも，生かせるのです。学級目標はシンプルでわかりやすいのが一番です。

常に学級目標に返していく

学級目標を達成していくには，まずは教師が常に意識し，目標を子どもに返す作業をすることから始まります。

「支え合う仲間」，そんな学級目標を立てたとします。例えば算数の時間に練習問題をしていた時，早くできた子がわからない子のそばにいき，一緒に考えている姿があれば，授業を少し止めてでも

「今，３班の子たちは，班全員ができるように教え合って学習していたよ。ほら黒板の上を見てごらん。３班はまさに『支え合う仲間』だね」

と話してやるのです。こういう仲間が「支え合う仲間」だということを授業や生活の中で，具体例を紹介することによって，子どもたちに定着させていきます。もちろん，算数以外の体育や国語等の授業の時も，給食や掃除の時でも同じです。そんな姿を見たら，すぐに教師は目標に返してやります。この「ワザワザ」の作業によって，子どもたちは学級目標に向かって動き出します。

学級目標とは，ただ壁に貼ってあるだけの「壁目標」ではいけないのです。

めあては，具体的なものを

学級目標は授業や生活すべてに当てはまるようにするので，大きな表現になりますが，めあてはそうはいきません。今学期のめあてを書きなさいと言うと

「国語をがんばります」

そんな書き方をする子がたくさんいます。そんな時には，

「国語の何をがんばりたいの？」

「漢字だよ」

「どうやって頑張ろうと思うの？」

「毎日，漢字を100字書きます」

「そうだね，それがめあてだね」

単に「国語をがんばる」では，何をがんばるのかあやふやですが，そこにツッコミを入れることによって，具体的に何をがんばるかが見えてきます。

めあてはがんばる方向を示すものですが，具体的な動きが見えないと子どもは結局動き出せないのです。

「みんなが仲よくできるようにドッジボール大会をしよう」

そんな提案が子どもたちから出た時は，仲よくするためにどんなチーム分けにするの？仲よくするためにどんなルールにするの？・・といろいろツッコミを入れます。すると仲よくなるための具体策が出るようになり，めあてにそったドッジボール大会ができるのです。

☆☆☆

カッコイイ学級目標やめあてを立てても実践できなければ意味はありません。そんな時に，教師の少しの「ワザワザ」や「ツッコミ」は，子どもたちに「クラスの仲間」を意識させ，「自分を変えていくきっかけ」を作ってくれます。それが積み重なっていくと，やがて教師からの「ツッコミ」がなくても，自分たちで気づき，自分たちで学級を築いていこうとするのです。それが「学級づくり」の過程なのです。

学級づくりＡＢＣ（９）

〈がんばれ若い先生たち〉

～ちょっとしたワザワザが人の心を動かす～

子どもたちが仲よくなるためのワザワザ

若手教師パワーアップセミナー
「元気が一番」塾主宰
仲島正教（なかじま まさのり）

「みんな，仲よくしなさい！」

先生のそんな声一つで，子どもたちがすぐに仲よくなってくれたなら，こんなに楽なことはありません。

「けんかをしないようにしましょう」

道徳の時間にそんな勉強をしたあと，みんながけんかをしなくなったら，こんなに楽なことはありません。それこそ教師の商売あがったりです。では，どうすれば子どもたちが仲よくなるのでしょうか。

「仲よし」をどう教えるか

小学校に入学して，初めての給食の時間です。こんなことが起こります。

「先生，牛乳がズボンにかかったよー」とＡ君は大泣き。そんな時にどうするかというと，先生が全部拭いてしまうのではなく，雑巾を３枚持っていって，両隣りの子にさっと渡して

「Ｂちゃん，Ｃちゃん，手伝ってね」

と言います。訳のわからないままＢちゃんもＣちゃんも一緒に拭きます。そして拭き終わったあとに先生は，

「Ａ君よかったねえ。ＢちゃんとＣちゃんが手伝ってくれたよ」

と言いながら，Ａ君の頭を撫（な）ぜたあとＢちゃんとＣちゃんの頭も撫ぜながら

「ＢちゃんＣちゃん，ありがとう」

としっかりほめてやります。

そんな光景を子どもたちは何度か見ているうちに，同じようなことが起こった時，今度は子どもたちが雑巾を取りに行き，自分たちで全部拭いてしまいます。先生は

「Ｄさん，よかったね。先生がしなくてもＥちゃんとＦちゃんが全部やってくれたね。あなたたちは『仲よし』だね。いい『友だち』だね」

と声をかけてほめてやります。すると子どもたちはいい表情になり，クラスの中に温かい雰囲気が生まれます。

子どもたちは，最初は「先生にほめてほしい」が動機になって動き出しますが，自分がしたことで「友だちが喜んでいる」姿を見て，「自分が役に立った」とうれしくなっていきます。そして「これが仲よしなんだ」「友だちっていいなあ」と体感していくのです。

他人（ひと）の喜びが，自分の喜びに

リレーの学習をすると，「おまえがいるから負ける」と足の速い子が遅い子を叱責することがあります。そんな時「仲よくしなさい！そんなひどいことを言ってはいけません」

と足の速い子を怒るだけではダメです。その子のそばに行って話してやります。

「そうかぁ君は勝ちたいんだね。じゃあその君の力をあの子に伝えてあげてよ。君ならきっとうまくできるよ」

すると，翌日からその子が教えてくれます。でも急に速くなったりしません。また叱責です。でも，先生はそばに行って再び声をかけます。

「先生にはわかるよ，あの子少しだけど速くなったよ。君のおかげだ」

そんなことを繰り返していくうちに，今まで叱責していたその子の口から

「そうや！その調子や！がんばれ！」

と励ましの言葉が出て，手をグルグル回しながら応援するのです。いつの間にか，遅い子の頑張りが自分の喜びに変わっていったのです。

点と点を結んで線にする「ワザワザ」

道徳の時間に「仲よくすることは大事だ」と学んでも，それはすぐに定着するものではありません。でも生活の中で前述のようなでき事が起こると，道徳で勉強した「点」と生活で体験した「点」が一本の「線」で結ばれます。すると子どもの心に変化が生まれます。そして行動が変わるのです。

教師は，授業の中で「点」をたくさん打つ作業はしますが，生活の中で「点」を打ち，それを結んで「線」にする作業を怠りがちです。

「線」は，もう一つの「点」と結ぶと「面」となります。もう一つ結ぶと「立体」にもなるのです。そうやって子どもたちはどんどん成長していくのです。

教師の仕事とは，そんな「点」を幾つも打ち，その「点」と「点」を結びつける「ワザワザ」をしてやることなのです。

☆☆☆

学校の中で子どもたちは，様々なことにつまずき，悩みます。いろいろトラブルにも出会います。だからこそ，それを指導するために教師がいるのですが，教師がつまずきを全部取ってしまったり，いつも教師が解決してしまうのはよくありません。

教師の本当の役目とは，子どもがつまずいた時，つまずきを取ってやるのではなく，つまずきを乗り越える力をつけてやることなのです。

みんなが助けてくれたからできた。みんなで協力してこんなことがやれた。そんな仲間との「線」や「面」の体験，これが学級づくりの醍醐味なのです。

学級づくりＡＢＣ（10）

〈がんばれ若い先生たち〉

～ちょっとしたワザワザが人の心を動かす～

学級通信をワザワザ書くことで学級は成長する

若手教師パワーアップセミナー
「元気が一番」塾主宰
仲島正教（なかじま まさのり）

「センセー，今日学級通信出る？」
「うん，出るよ，今から配るよ」
「ヤッター！」

そんな子どもたちの声に，遅くまで頑張った疲れもふっ飛んでいきます。そして保護者からも反応がありました。「学級通信を毎回楽しく読んでいます。子どもたちの学校での様子がよくわかり，親としても安心できます。時には感動して読みながら涙が出たこともあります。先生，いつも学級通信をありがとうございます。子どもだけでなく，私たち親も楽しみに待っています」

どんなことを書くのか

学級通信が，季節の挨拶や行事予定などの「お知らせ通信」的な感じでは，子どもの反応はもうひとつです。どんな時「ヤッター」と言うか，それは子どものことが書いてある時です。行事の中で，授業の中で，生活の中で，子どもがこんなことをしていた，こんな感想を持っていたという「子どもが登場」の学級通信にすることなのです。そうすると子どもも保護者も興味を持って読むようになります。挨拶文などはなくていいのです。とにかく子どもの様子を書くのです。書く内容は，先生が見つけた子どもの「いいこと」が一番です。

「今日の給食の準備の時に，当番同士がぶつかっておかずがこぼれました。すると２班の中田君と村中さんと藤田君がすぐに片付けてくれました。そのすばやい行動に先生は感心してしまいました」

「算数の時間に計算ドリルをしましたが，加東君は自分ができた後，となりの子にていねいに教えていました。これが支え合う学習の第一歩ですね。いい仲間ですね」

「体育でリレーをしましたが，４班の伊藤さんと松本君と井上君と坂口さんと前上君のチームは，バトンパスの時に声をかけ合いながら練習していました。４班が強い理由はこの魔法の声なのです」

こんなふうに授業や生活の中で見つけた「いいこと」をどんどん書いていくのです。それを毎回，みんなの前で読んでやります。そんな時，子どもたちの目はいつもキラキラ輝いています。

ワザワザ名前を入れて書くことの意味

「２班の人たちがこうした」と書くより「中田君と村中さんと藤田さんがこうした」と名前を書かれるとうれしいものです。あなたがこうしてくれたおかげでこうなったよ，とはっきり書いてやることによって，その子の自尊感情が育っていきます。そして自信を持って行動できるようになっていきます。名前を書くのはプライバシーにかかわるという意見もありますが，公開は学級内ですし，悪いことならともかく，いいことを書くのですから問題はないでしょう。ただ名前の出てくる子がいつも一緒ではいけません。そこはチェックしておく必要がありますし，時には全員の感想や目標なども載せるといいでしょう。

ワザワザ書くことで気づく

みんなで学級通信を読み合うことによって，子どもたちは自分に気づき，友だちに気づき，そして学級に気づいていきます。言葉だけでは根づいていないことが文字に表されていることによって再認識されていくのです。そして「僕らのクラスはなかなかいいね」という学級としての自尊感情も育っていきます。また，教師自身も学級通信を書くことによって，子ども理解が深まります。最初は子どものことが見えず，なかなか書けないものです。でも書こうとするからこそ，子どもを普段よりしっかり観察し，「いいこと」を見つけることができるようになっていくのです。ここに学級通信をワザワザ書くことの大きな意味があります。

長く続けるコツ

「学級通信を出したけど１年間でたった10号だった」そんな嘆きが聞こえてきます。学級通信を長く続けるには一度にいっぱい書き過ぎないことです。用紙はＢ４の大きなものではなく，Ｂ５とかＡ４の用紙で十分です。Ｂ４で週１回出すくらいなら，Ｂ５で週２回出す方が効果的です。また，カットはなくてもいいし構成もあまり考えません。思ったことを箇条書きでもいいから，とにかく書き綴っていけばいいのです。子どもたちが待っているのは，きれいな体裁ではなく，先生の「生きている文」なのです。そんな学級通信を楽しみにしているのです。

☆☆☆

日々忙しい中，ワザワザ学級通信を書くのはしんどい作業です。でもそのワザワザは，子どもや保護者の心を動かします。学級を成長させます。

学級通信は，子どもも保護者も，そして教師をも元気にさせる不思議な力を持っているのです。

学級づくりＡＢＣ（11）

〈がんばれ若い先生たち〉

～ちょっとしたワザワザが人の心を動かす～

たった５分間のワザワザ，それが「５分間家庭訪問」

若手教師パワーアップセミナー
「元気が一番」塾主宰
仲島正教（なかじま まさのり）

「ピンポーン！小学校の仲島です」
「あら先生，どうしたんですか？」
「突然にすみません。実は今日一平君がね。休み時間，逆上がりのできない友だちにずっと教えていたんですよ。自分も遊びたいだろうに，ずっとその子のために教えていたんです。そんな一平君の姿に感動したので，それをお伝えしたくてお邪魔しました。それだけです。では失礼します」

学校の帰りに，ほんの５分間だけ話をしに家庭訪問に行きます。玄関先のたった５分間の話が子どもも保護者も元気にさせていくのです。

「５分間家庭訪問」で「いいこと」を

家庭訪問と聞くと年度初めの家庭訪問と思いがちですが，今回のはそうではなく，日常の生活の中での家庭訪問のことです。そんな日常の家庭訪問に出かけると「学校で何か悪いことがあったのか」と保護者は身構えることがしばしばです。友だちとトラブルがあったとか，怪我をさせたとか，家に教師がやってくるのは一大事と思ってしまうのです。これは過去に教師が「悪いこと」の時だけ，家庭訪問に行っていたからです。そうではなく「いいこと」の家庭訪問をすることがとても大事なことなのです。

特にしんどい子，いわゆる課題の多い子は，概して自尊感情が高くありません。いろいろ問題を起こし，家でも学校でも怒られることが多くなりがちです。すると「俺は役に立たない人間なのか」そんな想いがこの子の心を傷つけ，また悪いことをするという悪循環を起こします。学級の中でうまく溶け込めなくなっていきます。

そんな時，教師はこの子になんとか自信をつけさせたいと「いいこと」を見つけ，口頭でほめたり，学級通信に書いてほめることをします。でも，その中で一番効果があるのが家庭訪問です。保護者の顔を見て「いいこと」を伝えるのです。たった５分の話を「自分の子どものために先生がワザワザ家に来てくれた」「あーうちの子は大事にされているんだ」保護者はそう思ってくれるのです。そして我が子を愛し，教師を信頼してくれるのです。すると「学校が好き，友だちが好き，自分が好き」そんな感情がその子に芽生えていきます。

モンスターペアレントにも

新学期が始まる前に，前学年から「あの親は大変よ」そんな引き継ぎもあるでしょう。そんな時は先手必勝です。始業式には，もうその子の「いいこと」を見つけて，夕方に「５分間家庭訪問」です。すると「今度の先生はよく見てくれている」と安心してくれます。モンスターペアレントは，実は自分の子がどうしているかを知りたいのです。自分の子が大事にされていることがわかれば文句は言わなくなります。トラブルがあってからの後追い指導の家庭訪問では，怒りは大きくなる一方です。それよりも何もない時にこそ「いいこと」を伝えておく「５分間家庭訪問」は，その後トラブルがあってもそれを軽くしてくれる効果もあるのです。

ワザワザ行くことが大事

行きたいけど「いいこと」が見つからない時はどうするか。実は「５分間家庭訪問」は「いいこと」がなくても，行くこと自体に価値があるのです。「近所を通ったのでちょっと寄ってみました」とか「今日元気がなかったので寄ってみました」という用件で十分です。本当は元気なのはわかっていても「ちょっと気になったから来たんだよ」という教師のワザワザに，子どもも保護者も心が動くのです。

その「一歩」を踏み出す勇気を

そうは言っても，家庭訪問へ行くのは敷居が高いものです。「そんなことで行ってもいいのか」「アポは取らなくてもいいのか」と迷うこともあるし，また「５分間家庭訪問」をしたことのない先輩からは「そんなことで行く必要はないよ」と言われるかもしれません。でも「５分間家庭訪問」をすれば，子どもは必ず変わります。保護者からも信頼されます。行くのにアポなどいりません。「いいこと」を持ってきてくれる先生に怒る保護者はいないのです。是非その「一歩」を踏み出す勇気を持ってほしいのです。一歩踏み出してしまえばあとは意外にすんなりできるようになるのです。たかが５分されど５分，この意味は大きいのです。

☆☆☆

学級づくりの中で，しんどい子の指導は大変です。悩むことも多いでしょう。でもそのままでは何も変わりません。悩んだ時は「足を運んでみる」のです。「教育は今日行く」なのです。

「５分間家庭訪問」は，みんなに「元気の素」を運ぶ宅配便です。さあその「一歩」を踏み出してみましょう！

学級づくりＡＢＣ（12）

〈がんばれ若い先生たち〉

～ちょっとしたワザワザが人の心を動かす～

研究授業をワザワザすることの意義

若手教師パワーアップセミナー
「元気が一番」塾主宰
仲島正教（なかじままさのり）

「今，学級づくりがうまくいっていないので研究授業はできません」

そんな教師の声が時々聞こえてきます。確かに学級づくりがうまくいっている時の方がいい研究授業ができるかもしれません。でも学級がうまくいっていないからこそ研究授業をすることが必要なのです。授業で子どもは必ず変わります。授業づくりをしながら学級をつくっていくのです。

授業の腕を上げるには

授業の腕を上げるために，まずは研究授業をして多くの先生方から指導をしてもらうことです。若い時は授業力がなくて当たり前ですから，失敗しても恥ずかしくありません。いっぱい指摘してもらいながら自分の授業を改善していくのです。研究授業の数と授業力は比例していきます。研究授業の機会があれば，必ず「私が研究授業をします」と手を挙げることです。

次に「いい授業」を見ることです。「百聞は一見にしかず」。どこまでも見に行きます。目標となる授業を見つけ，そのために何をすべきかを考えていくことで授業は変わっていきます。

３つ目は，先生同士で授業論議をすることです。サークルで話すもよし，飲み会でワイワイガヤガヤ話すもよし，とにかく言葉に出して論議することが大事です。そんな切磋琢磨によって授業力は高まっていくのです。

「あの子」の目を輝かせたい

学級づくりと授業づくりの共通点は何か？それはどちらも子ども理解が基盤になるということです。授業づくりで一番大事なことは「あの子」の顔を思い浮かべながら授業をつくっているかということです。教材研究ももちろん大事なことですが，「あの子」を忘れた授業は本物ではありません。若い時はどうしても「全体」を見て授業をしてしまうのですが，「全体」を見ているというのは実は誰も見ていないということに陥りやすいのです。学級で一番厳しい状況の「あの子」が目を輝かせるのにはどうしたらいいか，そんな授業づくりが，学級づくりにも必ずつながっていくのです。

授業は教師の命

授業のうまい先生は，いつも「一生懸命」で「元気」だし「優しい」，そして「謙虚」です。また「子ども理解」がしっかりしているので「生徒指導」も「学級づくり」もうまいのです。授業がうまくなるということは，教師としてのあらゆる条件も成長するということなのです。ここにワザワザ研究授業をすることの意義があるのです。

☆☆☆

私の「学級づくり ABC」の連載も今回で終了です。最後は「卒業試験」の話でまとめとしたいと思います。

卒業式まであと２週間の教室で・・・

「今から卒業試験をする。このクラス35人いるけど今から，『人間のいい者順に一列に並べ！』誰が一番いい人間や？誰が一番悪い人間や？さあ一列に並べ！できなければ卒業させない」

そんな突然の私の問いかけに，子どもたちは猛反発です。

「センセイは今まで，人間にはそれぞれ個性があり，それぞれにいい所や悪い所があって，けっして順位はつけられない。『人間はみんな違ってみんないい』といつも言っていたじゃないか！」

でも私は「人間のいい者順に一列に並べ」と言い続けます。理不尽な事を言う私と，子どもたちの言い合いは続いていきましたが，あまりにしつこい私の態度に，これは何か変だと気づいた子どもたちは

「センセイは職員室に戻ってくれ！あとは俺たちだけで考えるから」

と私を教室から追い出しました。

そこから子どもたちの白熱の議論が始まりました。考えに考え抜いたようです。１時間後，日番の子が私を呼びにきました。そして教室に戻ってきた私に，その答えを見せてくれたのです。

子どもたちは，教室の机といすを後ろにし，教室の前を広くして，そこで，男女が交互になって，中を向いて，一つの輪になっていたのです。

「よく考えたな，これが正解や。これで全員無事卒業や。卒業おめでとう」

そう言いながら私は涙がこぼれてしまいました。そして言葉を続けます。

「こうやって一つの輪になると，全員の顔が見えるだろ。うれしそうな顔をしている友だちがいれば一緒に喜べるし，悲しそうな顔をしている友だちがいれば，そばに行って声をかけてあげることができる。みんなはこの１年間こうしてがんばってきたんだ。これからの長い人生，苦しいこともあるだろうけど，こうやって輪になっていけば，それを乗り越えていくことができるんだよ。卒業おめでとう。そしてありがとう」